



しまねの社会教育だより



photo 益田市 横田中学校と西益田地区との地域学校協働活動「つろうて子育て協力者の会」

特集

子どもたちに豊かな学びを！ 子どもたちから活力を!! ～地域学校協働活動の取組～

2020.
9月号

contents

- 公民館等実態調査の分析から見えること
- 学びがチカラに!! 〔邑南町 田所公民館 奈須 圭嗣さん〕
- わがまちの社会教育の実践紹介 〔松江市・美郷町〕
- つながる ひろがる “わ” 〔安来市〕

特集 子どもたちに豊かな学びを！

■ これまでの「学校支援」を土台に、共に創る「協働」の形へ

「地域学校協働活動」って何？

平成29年3月の社会教育法の改正により「地域学校協働活動」が法律に位置付けられました。これは、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動です。また、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動に取り組むことも特色の一つです。

島根県では…

島根県では、これに先駆けて平成24年度から「結集!しまねの子育て協働プロジェクト」(右図)として、地域全体で教育に取り組む体制づくりを進めてきました。キーワードは、『『支援』から『連携・協働』、『個別の活動から総合化・ネットワーク化』へ。『学校支援』から地域と学校の双方向での『連携・協働』の形へ発展させ、多様な活動の違いも認め合いながら総合的に運営を進めてきました。県内各地域で多くの特色ある取組が展開されています。



■ より充実した「地域学校協働活動」を目指して

「地域学校協働活動」の取組が進む中で、いくつかの課題も明らかになってきました。

課題
1

人づくり・地域づくりの意識の醸成

課題
2

多くの、幅広い層の地域住民の参画

課題
3

持続可能なしくみや体制づくりの推進

県内の各地域では、それぞれの課題に対して下図のような工夫を行いながら取り組むことで、より充実した「地域学校協働活動」を目指しています。

- 地域や学校の関係者で活動のねらいやめざす姿を語り合う時間を設ける。
- アンケートや報告会で活動を振り返る。
- 学びと活動の循環を目指した公民館活動を行う、等



- 青少年育成協議会やPTAなどにも呼びかけ、短時間でも子どもたちと関われる時間を確保する。
- 放送や文書で広く地域住民等に呼びかけ、新たな参画者を募る。
- 参画者が固定化しないように、意図的にローテーションを組む、等



- 学校支援地域本部から地域学校協働本部への移行
- コミュニティスクールとの連携
- コーディネーターの配置と業務の明確化、等



(参考資料：実践事例集「学校・家庭・地域の連携・協働のポイント」 令和2年3月 県社会教育課 発行)

子どもたちから活力を!! ~ 地域学校協働活動の取組 ~

■ 県内の具体的な取組を紹介します!

県内の取組の中から、今秋に開催するセンター主催「コーディネーター研修」で事例発表を行う2つの地域の実践者の皆さんにお話を伺いました。(インタビューをもとに再構成しています。)

▶ 地域が一体となって歩む! 佐田中学校区地域学校協働活動

地域学校協働活動推進員(前出雲市 須佐コミュニティセンター長) 大崎 強さん

■ 経緯

各校の地域学校運営理事会やコミュニティセンター(以下“コミセン”)を活かして、学校と地域資源をうまく結びつけながら、ふるさと教育推進事業を中心に支援する体制づくりを行ってきました。

■ 主な活動内容など

地域からの押し付けではなく、学校からの要望を引き出しそれに応える形で取り組むのが基本。小学校の授業ではコミセンの部会や地元のグループ等と連携しながら、EM菌の学習や炭焼き体験などを実施するとともに、中学校では地元森林組合や建築組合の協力を受け、間伐材によるベンチづくり等を実施しています。2つの小学校合同のリーダー研修をコミセンの企画として実施する等、子ども達との関わりを楽しみながら協力を惜しまない地域住民の姿が多くみられます。

■ 今後の展望

今後も活動を通して「地域の子どもは地域の宝として地域で育てていく」という考えを地域に浸透させるとともに、事業への参画の輪を広げたり、コーディネート役を育てたりしていきたいです。



EM泥団子づくり



炭焼き体験

▶ ふるさと教育を通じて新たな地域づくりを目指す 大田西中学校区地域学校協働活動

大田西中学校区地域教育協議会会長・温泉津公民館長 友村 光男さん
温泉津小学校学校支援コーディネーター・湯里まちづくりセンター職員 山根 澄子さん



温泉津町畜産共進会×生活科



温泉津公民館「どきどきどようび」

■ 経緯

統合により校区が大きく変化する中、公民館が各学校支援コーディネーターを統括するこれまでの学校支援地域本部事業を発展させ、新しい形での学校と地域の連携・協働を図りながら地域学校協働活動として実施しています。

■ 主な活動内容など

温泉津小学校では、年度当初に開催する「ふるさと教育調整会議」で学校支援コーディネーターや公民館職員が地域の教育資源情報を提供しながら、全教職員と1年間のふるさと教育の取組について話し合っています。また、大きなエリアでは公民館が地域人材を活用した体験活動を行ったり、小さなエリアではまちづくりセンターが通学合宿や子どもたちの地域活動を支えたりしながらそれぞれの特徴を生かし、より多くの地域住民が子どもたちと関わる場を設けています。このような取組の継続により、協力する地域住民の期待感も高まっています。

■ 今後の展望

今後校区がさらに変化しても、こういったしくみを使っていけば、地域の子どもを地域で育ていこうという機運は持続できると思います。また、子どもの育ちに関わる組織をさらに巻き込みながら、協働活動の輪を広げていきたいです。

■ 地域と学校がパートナーとなるために

多くの地域では、新たに何かをするのではなく、これまでやってきたことをもとに、地域と学校が目的を共有し、それまでの取組や組織などを視点を変えて整理・改革してきたのではないのでしょうか。

下関市立大学の天野かおり先生は、昨年度の「コーディネーター研修」の中で、「**地域と学校がパートナーとなるためには、地域には教育の責任を学校と分かち合う覚悟が、学校には地域という異質を受け入れる覚悟が必要。**」と地域と学校がパートナーとなるためのポイントを示されました。

子どもたちを支える大人たちが立場や違い、互いの持ち味を生かしながら連携・協働することで地域と学校のパートナーシップも高まっていくと考えています。



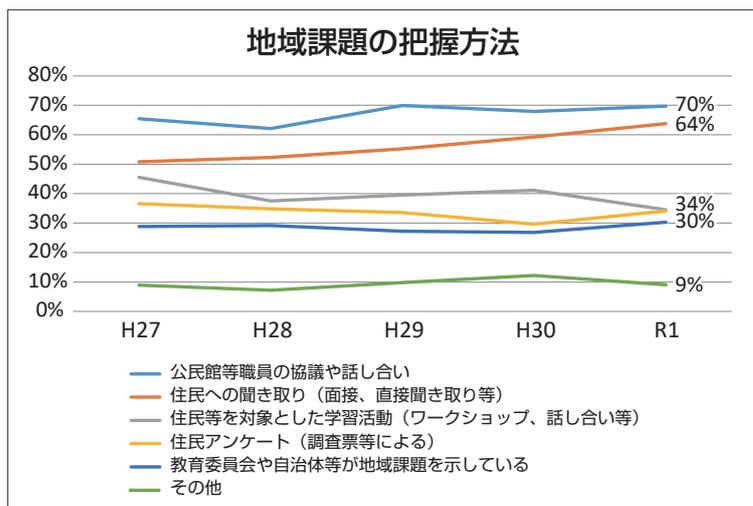
公民館等実態調査の分析から

島根県において、公民館等は住民の当事者意識を高め、地域を担う人づくりの拠点となり、地域のなかで重要な役割を果たしています。

平成27年度から令和元年度までの5年間の調査の分析から見てきたことについて、いくつかを紹介し、現在の公民館等や地域の状況について考えます。

地域課題の把握方法（複数回答可）

地域課題を把握していると答えた公民館等は、ここ5年間、常に95%以上となっています。特に最近の3年間は、98%の館（287館）が地域課題を把握しています。では、地域課題をどのように把握しているのでしょうか。



館内での協議にとどまらず、住民から直接情報を収集しようとする様子がうかがわれます。特に、年々「住民への聞き取り」の割合が高くなってきています。反対に「住民等を対象とした学習活動」は、少しずつ低下してきています。

地域課題の解決に向けて、「住民の学び」が大切です。

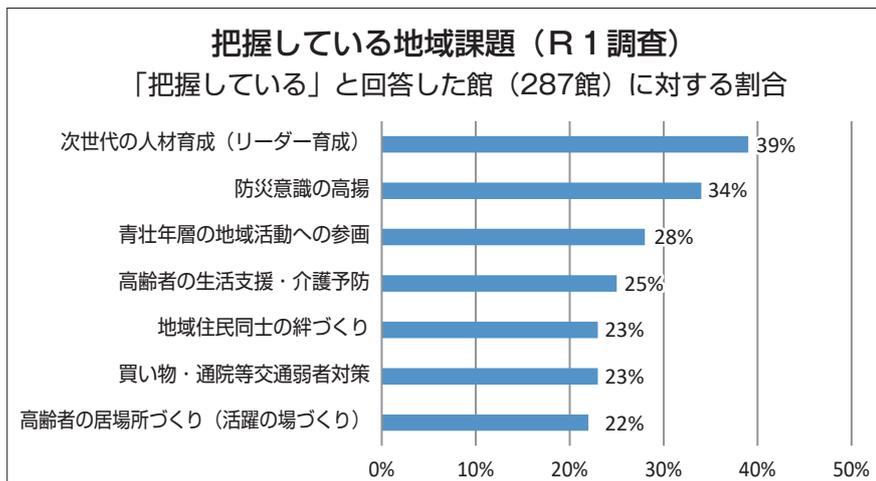


東部・西部社会教育研修センターでは、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援・推進するために「地域魅力化プログラム」を作成しています。このプログラムを活用していただくことで、地域住民の主体的な「学び」と「動き」が生まれ、地域づくりに参画する人づくりの機運が高まることを願っています。詳しくは、東部・西部社会教育研修センター、ホームページをごらんください。

「地域魅力化プログラム」を活用してみませんか？

把握している地域課題（5つまで選択）

平成29年度からの調査では、「把握している地域課題」を調べています。どんな課題が多いのでしょうか。



この3年間、上位にあがってくる地域課題は、ほとんど変化がなく、固定化してきています。

最も多かった地域課題は、「次世代の人材育成（リーダー育成）」です。毎年、約4割の公民館等が課題だと感じています。

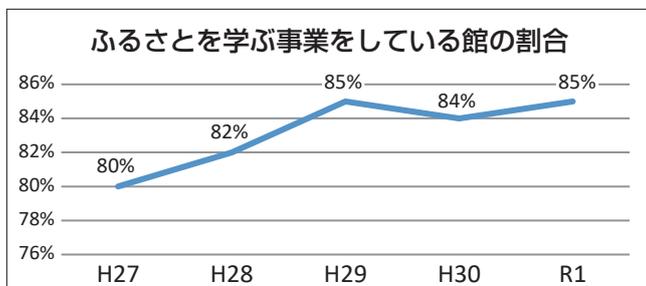
令和元年度の調査では、それまで3番目にあげられていた「防災意識の高揚」が2番目になりました。

見えること

東部・西部社会教育研修センターでは、平成27年度から「公民館等実態調査」を行っています。この調査は、県内の公民館、コミュニティセンター、交流センター、まちづくりセンター等が対象です。令和元年度に行った調査では、県内の293館から回答を得ています。「公民館等実態調査」の報告書は東部・西部社会教育研修センター各ホームページより、ご覧いただけます。

ふるさとについて学んだり、体験したりする事業

公民館等が主催している教室・講座などの事業があると答えた館のうち8割以上の館が「ふるさとについて学んだり体験したりする教室や講座」を行っています。



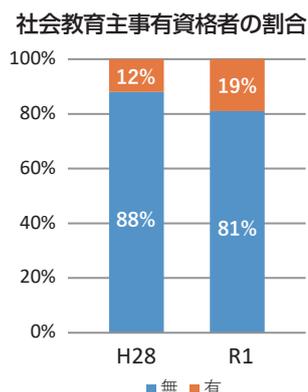
子どもや大人を対象としたふるさとについて学んだり、体験したりする教室・講座を行っている館の割合は、年々増加してきています。

年間の回数を見てみると、令和元年度調査では、「ふるさとに関する事業をしている館」245館のうち、約6割の館（144館）が1～3回、約3割弱の館（63館）が4～6回、1割弱の館（21館）が7～10回の事業を行っています。11回以上の事業を行っている館も7館あり、継続的な取組が行われています。

「平成30年度に実施した特色ある事業や教室・講座」の中から、学校のふるさと教育と連携した事業の一部を紹介します。※各公民館から提出されたものをそのまま記載

1. 事業名	「ふるさと学習」教材化へ（小学校との協働による）
2. 事業の目的 ・ねらい	「ふるさと学習」の教材化の手掛かりとなるよう、ふるさとの歴史・自然について取り上げ、小学校と協働し、職員研修を行う。
3. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教職員の研修として、ふるさとの歴史・自然を教材とする内容について4回にわたり審議。 ・身近な歴史・自然について教職員自身を知ることにより、次年度の「ふるさと学習」に活かすことができるよう研修内容について、地元住民とも審議。 ・研修内容ごとに3つのグループを編成し、地域の歴史・自然等に詳しい地元住民を講師として研修を行う。 ・3つのグループはそれぞれに、講師の地元住民から話を聞き、見学をし、体験も含めた研修を行う。 ・小学校教職員から研修後に感想などをアンケート調査する。
1. 事業名	妖怪で地域をつなげ盛り上げよう！ ～地域に伝わる伝説を取り入れた地域づくり～
2. 事業の目的 ・ねらい	地域に伝わる「伝説」や「妖怪」をキーワードに、地域資源の再発掘と地域活動の推進を図る。また子どもにふるさとへの愛着を育み地域とつなげることで地域の活性化を図る。
3. 事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> ① ふるさと地域探検隊（地域に伝わる昔話や伝説の調査） ② ふるさと学習会（地域に伝わる昔話や伝説の学習会） ③ おさんぽ歩数マップづくり（伝説や妖怪のポイントを歩いてもらう） ④ 石見の妖怪カルタづくり（妖怪絵図の読み札を小学校で作成してもらいふるさと学習に活用する） ⑤ 肛門干しプロジェクト（大根を育成し、「肛門干し」の手法で干し大根をつくる）

社会教育主事資格の有無について



「公民館等実態調査」では、公民館等に在籍する職員の状況として社会教育主事資格の有無についても調査しています。

公民館主事等について、平成28年度と令和元年度のデータを比較すると、有資格者の占める割合は12%から19%になり、有資格者の割合は増加しています。

令和2年度からの社会教育主事講習では講習の修了証書授与者に、新たに「社会教育士」の称号が与えられます。

「社会教育士」には、多様な主体と連携・協働して、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待されています。

（文部科学省 H30 1月～2月「社会教育主事講習等規定の一部改正に関する説明会」配付資料より）

学びがチカラに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

公民館職員だからこそできることをやり続けたい

邑南町 田所公民館 主事 奈須 圭嗣 さん

奈須さんは、地域で子どもたちを相手にミニバスケットボールを指導しています。その中で、一方的な言葉では経験値の少ない子どもたちに自分の思いは伝わらないことを実感していたそうです。また仕事においても、初めは地域の人とつながりがなかったため、いざ事業をするにしても、自身で計画したり動いたりすることしかできなかったという奈須さん。「どうすれば自分の思いが相手に伝わるのか」「どうすれば地域の方々の活動に巻き込めるようになるのか」、**ファシリテーター養成講座や社会教育主事講習〔B〕**などの研修・講習会に積極的に参加したり、日々の業務を通して地域の方々との関わりから教えられ、気づいたりすることで、そのヒントを得られているそうです。



■ 一番の学びは、目的意識！

色々な場面で、伝達をするだけの慣習的な会議はよくあります。しかし、ある時、「井戸端会議」の重要性を知りました。見方を変えればそんな会議も様々な世代や立場の人が集まって、ざっくばらんな話ができる貴重な場であり、それが公民館なんだと気づかされました。「せっかくだから、事業のねらいを見直してみよう。意見がたくさん出るように机の配置を工夫し、アイスブレイクをして雰囲気や和らげよう。お茶やお菓子を準備するのもいいかな。」などと、会議一つとっても**目的意識を持って行うことの大切さ**、それを達成する具体的な手立てを学びました。

邑南町では役場職員が公民館主事として地域に出向しているの、いわば住民に一番近い場所にいる行政職員と言えます。



「地域学校」での釣り竿づくり

これまで2年間の公民館主事としての経験の中で、些細なことでも住民の思いを公民館が間に入って行政に伝えたことで、迅速に対応でき、住民の不安解消につながったことがありました。普段から**住民の話を傾聴することを意識し、良い関係づくり**に努めています。地域のことを知らないからと構えなくても、地域とつながることで強い味方ができます。

「地域学校」の事業では、地域の方から釣り竿作りや川釣りを教えてもらい、子どもたちと一緒に夢中になって活動を楽しみました。まだ保護者世代の参画は少ないですが、一緒に活動してもらうことで地域の魅力を発見したり体感したりすることをおして少しずつ運営側に巻き込んでいく。そうやって、**自分が動くというよりも住民に動いてもらって自分は調整役に回る**というような考え方ができるようになったことも学びの成果の一つです。特に、社会教育主事講習〔B〕では、事業を見直す引き出しが増えた気がします。

※「地域学校」とは、邑南町で行っている、公民館を中心としたふるさと教育の取組のこと

■ 学びを仕掛ける立場として

自分自身が研修を受けている時に、その場ではとても満足しているのですが、その後実際にそれを生かそうという時に、あと一歩が足りないと感じることが多いんです。公民館では、住民の皆さんを対象に様々な学びの場を提供する機会があります。**住民の学びを着実にその後の動きにつなげることが**できるよう、主催する研修会では、参加者の思いを引き出しながら解決策を主体的に探れるよう仕掛けるとともに、どのようにフォローアップをしていくべきかを考えながら行っていきたいと思っています。



住民手作りの「地域のお宝マップ」

「学ぶ姿勢」を忘れず、研修会や日々の住民との関わりからも学び続け、自分の力に変えている奈須さん。これからも「目的」と「つながり」を大切にしながら、公民館のあるべき姿を目指して公民館職員だからこそできることを模索し続けていかれることでしょう。

社会教育の実践紹介



若者集団による地域の活性化を目指して ～「いと研」の挑戦～

ヤングITOまちおこし研究会 小室 範明

ヤングITOまちおこし研究会（通称「いと研」）は、旧東出雲町意東地区の若者世代（10代～40代）を中心に、平成31年4月に発足した会です。

これまで同地区では、“地域活動への若者の参加が少ない”という課題を抱えていました。そこで、地区内の有志が集まり、地域の魅力や若者集団の組織化について話し合い「いと研」が結成されました。

初の試みとして、“懐かしさと新しさ”をテーマに地区の公民館まつりでメダカすくいやおもちゃ広場などを出店。親子連れを中心に、多数の方が来場し「いと研」のPRと、若者

同士のネットワークを構築するきっかけとなりました。

2月には節分に併せ豆まき・恵方巻づくりを企画。幅広い年齢層で交流を深めることを目的とし、高齢者ボランティアにも協力いただき、新たな仲間を増やすことができました。

「いと研」の活動は始まったばかりですが、今後も様々な世代と連携しながら、若者がいつまでも関わりを持てる魅力的な地域を目指し、活動を通じて地域の活性化に少しでも貢献できるよう、精一杯取り組んでいきたいと思えます。



公民館まつり



節分のついで～三世代交流～

公民館まつりでは、自然に「いと研」のお店のまわりに親子連れの若い世代が笑顔で集まっている姿が印象に残っています。団体名に、ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字が意図的に入れられていて、子どもから高齢者まで幅広い世代の人を巻き込んでいこうという気持ちが伝わってきました。「いと研」のこれからは目が離せません。

（松江教育事務所 松江市派遣社会教育主事）



学び合う ～協力から協働へ～

大和地域学校支援コーディネーター 森下 奈保子
 邑智地域学校支援コーディネーター 原田 羽留奈

本町では地域学校協働活動を進めるため、校区（大和、邑智）ごとにコーディネーターが配置されています。今回は、私たちコーディネーターがそれぞれの活動や想いを紹介します。

大和中学校では総合的な学習の時間を「荷越瀬（にこせ）プロジェクト」と名付け、神楽コース、ふるさとコースに分かれて学習を進めています。地域へ出かけて体験したり話を聞いたりすることで、地域の方のふるさとに対する想いや子どもたちに伝えたい想いを知ることができました。このプロジェクトが地域・学校の連携を深め、お互いに“学び合う”意識を高めることに繋がっていくと信じています。たくさんの人と出会い、ふるさと大和に誇りを持ってほしいです！（森下）

邑智小学校では、6年間で邑智地域の各エリアをまわり、地域の方と一緒にそれぞれの特色を活かしたふるさと学習を進めています。今年度から、5年生が「山くじら（猪）」についての学習を始め、まずは地域の婦人会の皆さんから獣害に強い畑作りの工夫を学びました。今後、猪の生態や捕獲後の活用方法についても学んでいく予定です。野生動物への正しい認識や獣害対策など、この学びが子どもたちを通して地域全体へ広がってほしいです！（原田）



地元神楽団から舞の手ほどき



サルおどしのロケット花火の実演

コーディネーターの支援により、それぞれの活動で教職員と地域の関係者による事前の打合せや現地確認ができるようになり、年々より充実した活動に見直しができています。また、魅力的な地域資源が新たに活用されています。「地域の力を学校に！学校の力を地域に！」、共に学び高まり合うふるさと美郷を目指します。

（浜田教育事務所 美郷町派遣社会教育主事）



今号からスタートした「つながるひろがる“わ”」では、しまね学習支援プログラム第3弾「地域魅力化プログラム※」活用の様子をお伝えしていきます。

第1回は安来市 菅原交流センターの取組を紹介します。



笑い会い 支え愛 結び逢う ^{すがはらびと}菅原人

～つなげよう未来へ 笑顔あふれる菅原の里～

(菅原交流センター)

地域ビジョンを作成していく過程において、たくさんの方々が自分たちの地域“菅原”を見つめ直し、地域のために何が必要か、自分（たち）に何ができるのかを考えるきっかけにしたいという思いをもって取り組んでいます。

●世代別の声を活かす

菅原交流センターでは、地域住民が当事者意識をもって地域づくりに目を向けることを意識するなかで、特に若い世代の地域参画を企図し、世代別に開催日を設定してワークショップ形式で話し合いを行いました。中・高校生のみの日や20代から40代の若者世代の日を設けることで、近い世代同士による率直で自由な発想に基づいた意見交換が行われるように心がけました。

各ワークショップで出た意見は住民有志によるプロジェクト会議メンバーで集約し、地域ビジョンに反映するべく検討会を行いました。今後、さらに話し合いを進め、地域ビジョンを決定するとともに



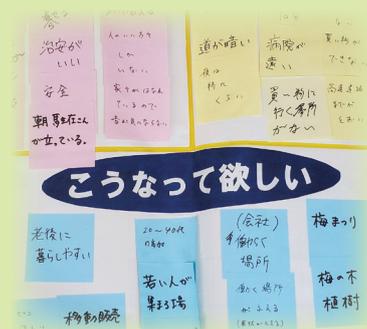
ワークショップの様子（若者世代）



プロジェクト会議の様子

地域住民へ周知していく予定です。

今回、地域ビジョン作成に取り組むことをとおして、目標の1つとしていた“若い世代が地域行事に参加するきっかけづくり”をすることができたと考えています。今後は世代を越えて住民同士がさらにつながりを強め、これまでも増して住民が笑顔で支え合う菅原の実現に向かっていきたいと思ひます。



こうなって欲しい

●よりよい地域づくりに向けて

安来市では、特色ある地域づくりを目指し、交流センター単位での地域ビジョン作成を推進しています。地域ビジョンを地域の実態に即したものに



地域振興課
主任 角原 宙

するためには、ワークショップは非常に有効であると考えています。今後もよりよい地域づくりを進めるために、住民参加型の学習手法の習得やスキルアップは必要不可欠なものだと感じています。

今回の事例では「地域魅力化プログラム」を活用してワークショップを実施し、進行は交流センター主事が行いました。地域の実態を把握している方がファシリテーターの役割を担うことで、参加型学習を効果的に行うことに加え、持続的にかかわっていくことが可能になります。今後、地域の活動や地域づくりに主体的にかかわろうとする地域住民の輪が広がっていくことを期待しています。



学校教育課
派遣社会教育主事
小西 修二

※「地域魅力化プログラム」とは、地域づくりに主体的に参画する人づくりを支援・推進するために、参加型学習の手法を用いた学習支援プログラムです。当センターホームページで閲覧・ダウンロードできます。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

第32号は
2月末
発行予定